

2011年7月9日(土)

第3回 涼宮ハルヒと村上春樹文学

～西宮ゆかりの作品を解説する

講師：土居 豊

『涼宮ハルヒと村上春樹文学～西宮ゆかりの作品を読み解く』

【はじめに～講演の意図】

西宮市は、村上春樹が育った街であり、また、谷川流のライトノベル/アニメ『涼宮ハルヒの憂鬱』シリーズの舞台として世界中のラノベ/アニメファンの「聖地」ともなっています。

昨年に引き続き、世界的作家・村上春樹の小説と、『涼宮ハルヒ』シリーズとの関連を読み解きます。

1. ノーベル文学賞候補作家・村上春樹の小説とラノベ/アニメ『涼宮ハルヒ』シリーズとの意外な関係
『涼宮ハルヒの憂鬱』は、その原作のライトノベルも含めて、村上春樹の作品世界との親近性を持っている点が3つ挙げられます。

その1：作品舞台として阪神間の土地を描いていること。

その2：どちらもSF的作品であること。

その3：「ボーイミーツガール」を描いた典型的な青春小説的作品であること。

※『ハルヒ』シリーズの副主人公ともいべき長門有希は、作中で村上春樹の小説を読んでいる。

2. ハルヒとハルキの文体

ラノベ『涼宮ハルヒ』シリーズにみられる、村上春樹文体へのリスペクト

(例)「やれやれ」というセリフの使い方

「やれやれ」とは、『ノルウェイの森』のワタナベの口癖でもあるように、村上作品の語り手が決めセリフのように常用する。

一方、『ハルヒ』の語り手キョンも、要所要所で、わざとのように「やれやれ」とつぶやいてみせる。

※谷川流氏の高校同窓生への取材によると、谷川氏が村上春樹の愛読者だったかどうかは不明だが、文集の発表の時には、SFを書いていたとのこと。

3. 『ハルヒ』のモデルと作品の区別（同窓生への取材より）

(1) 谷川流氏の在学中の西宮北高文芸部と『ハルヒ』のSOS団との共通点はあるか？

→演劇部と合同で、放課後の部室でわいわい騒いでいたとのこと。

(2) 文芸部室のイメージは、アニメの通りか？

→木造の部室ではなく、雰囲気はかなり違ったとのこと。

(3) その他の主人公たちのモデルと考えられる生徒はいたか？

→モデルではないか？といわれている同窓生はいる、とのこと。

(4) 在学中に喫茶ドリームに行ったことはあるか？

→存在は知っていたが、昔も今も、ドリームは高校生が気軽に入る店ではないとのこと。

(5) 在学中に北口駅前の広場で待ち合わせしたか？

→待ち合わせ場所によく使われたという印象はないとのこと。

※『消失』のあとがきにある谷川氏の北高時代の回想はかなり事実に近いらしい。

4. ハルヒの風景～『涼宮ハルヒ』に描かれた関西の風景描写（同窓生への取材より）

(1) 鶴屋山は甲山？

→おそらくその通り。小学生の遠足の定番。

(2) 甲子園球場にハルヒが行ったエピソードについて

→西宮市は、小6と中学の行事で、年に一度甲子園球場を使っていた。



※阪神甲子園球場

(3) 谷川流氏の震災体験について

→谷川氏の実家は、震災後も以前のまま建っているとのこと。

(4) 谷川流氏と図書館について。

→高校生のころはまだ北口図書館はなく、香櫨園にある中央図書館しかなかったため、谷川氏の実家から自転車で行くには相当遠いはず。

5. ハルキの風景～村上春樹の小説に描かれた関西

- 故郷の西宮、芦屋の風景（初期3部作、『ノルウェイの森』『国境の南、太陽の西』など）
- 奈良の古墳（『風の歌を聴け』）
- 京都の北山山中、美山近辺（『ノルウェイの森』）



※映画『ノルウェイの森』では、京都北山ではなく兵庫県神河町がロケ地だった

- 甲山（カフカのお椀山→作中では山梨県）

6. 文学の中だけに永久保存された阪神間の風景

【震災をめぐるハルヒとハルキ】

(仮説) 阪神淡路大震災からハルヒは生まれた

村上春樹は震災をどのように見、描いたのか？



※現在、神戸港メリケン波止場に保存されている震災当時の崩壊した岸壁

【甲山をめぐるハルヒとハルキ】

(仮説) ハルヒ：鶴屋山 = 甲山 = お碗山：ハルキ

阪神間の風景の象徴である甲山が、両者の作品の風景として共有されていることは、阪神間を描いた作品の代表例としてふさわしい。